

量的調査手法で、「病の語り」におけるジェンダー差を明らかにしている。

こうした疾患横断的な2次分析が可能となるのは、DIPEX ではすべてのモジュールに共通した手法で語りを採取し、それを統一された方法でデータベース化しているからで、その点が、研究者の「個人芸」の感が強かった、従来の質的研究と一線を画しているところでもある。そもそも保健医療分野での質的調査は時間と労力がかかることから、あらかじめテーマを絞り込んで行なわれることが多い。その場合個々のテーマにあったサンプリング手法やある程度構造化されたインタビューガイドが用いられるため、異なる調査から得られたデータを比較することは難しい。

DIPEX ではどのモジュールでも、maximum variation sampling といって、年齢や性別、人種、居住地域、治療法の選択、診断されてからの年月などの点で、できる限り多様なサンプルを集めるようなサンプリング手法が用いられており、インターネット利用や本人が考える病気の原因、NHS に対する意見などはどのモジュールでもインタビュー後半で聞くようにしているので、異なるモジュールのデータも比較がしやすいのである。

なお、DIPEX のリサーチチームに属さない研究者が、DIPEX のデータセットの利用を希望する場合は有償となる。しかし、改めて数十人もの患者にインタビューを行うことを考えると、研究の性格によっては既存のデータセットを使う方が安上がりとも考えられるし、新しい研究が始まるたびに協力を求められる患者側の負担を考えれば、もっと積極的に既存データの2次使用が行われてもよいのではないだろうか。

## 5. DIPEX 日本版の構築に向けて

以上のように、DIPEX は質的研究のプロジェクトとして、次々と学術論文と保健医療領域における新しい知見を生み出している。とはいえ、現在完成している30のモジュールのうち、学術論文が書かれているのは上述した12モジュールのみで、しかも特定のモジュールで複数の論文が書かれている。これはテーマによって学術論文が書きやすいものと書きにくいものがあるからなのだろうか。そこでDIPEX 側に確認してみたところ、論文の数の差はテーマによるものではなく、むしろリサーチ者の質的調査に対する習熟度やプロジェクトの進行具合によるという。

DIPEX のリサーチ者は大学の常勤ではなく、モジュール単位で13～14カ月の雇用契約を結んでいる。DIPEX ではモジュールごとに資金調達が行なわれるため、なるべく短時間で仕上げなくてはならない。通常のスケジュールでは、最初の6カ月間で患者のリクルートからインタビュー採取までを終え、7カ月目には、テープ起こしや原稿の本人チェック、著作権譲渡確認などを終了して、11カ月目までにデータの分析からウェブ用のサマリー原稿を作成する。したがって学術論文の作成には最



Sue Ziebland さん（左から2番目）ならびにDIPEX リサーチチームのメンバーとともに  
(2006年4月Oxfordにて)

後の2カ月間しか残されていないというハードスケジュールである。リクルートで手間取ったり、患者本人の原稿確認の段階でトラブルが起きたりしてスケジュールがずれこめば、論文を書く時間はとれなくなってしまう。また、リサーチ者の多くは再雇用契約を結ぶため、すぐに次のモジュールの作業が始まってしまい、結果的に論文が書かれないままになっているモジュールもあるのである。しかし、論文のないモジュールのデータにも、時間さえあれば複数の論文を書くのに十分なだけの情報がある、ということであった。

2006年春、日本国内でも同様の「患者の語り」のデータベースを構築することをめざして、DIPEX-JAPAN 設立準備会（代表：別府宏園）が発足した。同会では英国のDIPEX サイトへの日本語ゲートウェイ (<http://homepage2.nifty.com/dipex-j/>) を開設したほか、同年11月末から12月にかけてDIPEX のリサーチディレクターであるSue Ziebland 氏を迎えて、京都と東京で講演会やシンポジウムを開催した。また、同年9月からDIPEX の質的研究手法を研究するためにDIPEX 論文抄読会を月に1度のペースで開催している。

わが国では英国のように専任のリサーチ者を雇用することは容易ではないことから、同様のペースでウェブサイト構築し、かつ学術論文も作成することは難しいだろうが、学術的な研究を直接社会にフィードバックして臨床的に応用できるDIPEX のデザインは極めて魅力的であり、日本においてもやはりめざすべき目標であろう。

DIPEX JAPAN 設立準備会では現在、英国版における乳がんと前立腺がんのTalking Aboutの全文翻訳に着手しており、年内にはこれら2疾患の国内患者を対象としたインタビューを開始する予定である。このプロジェクトの趣旨に賛同して協力して下さる方は、ぜひ [dipex\\_j@yahoo.co.jp](mailto:dipex_j@yahoo.co.jp) 宛にご連絡いただきたい。